

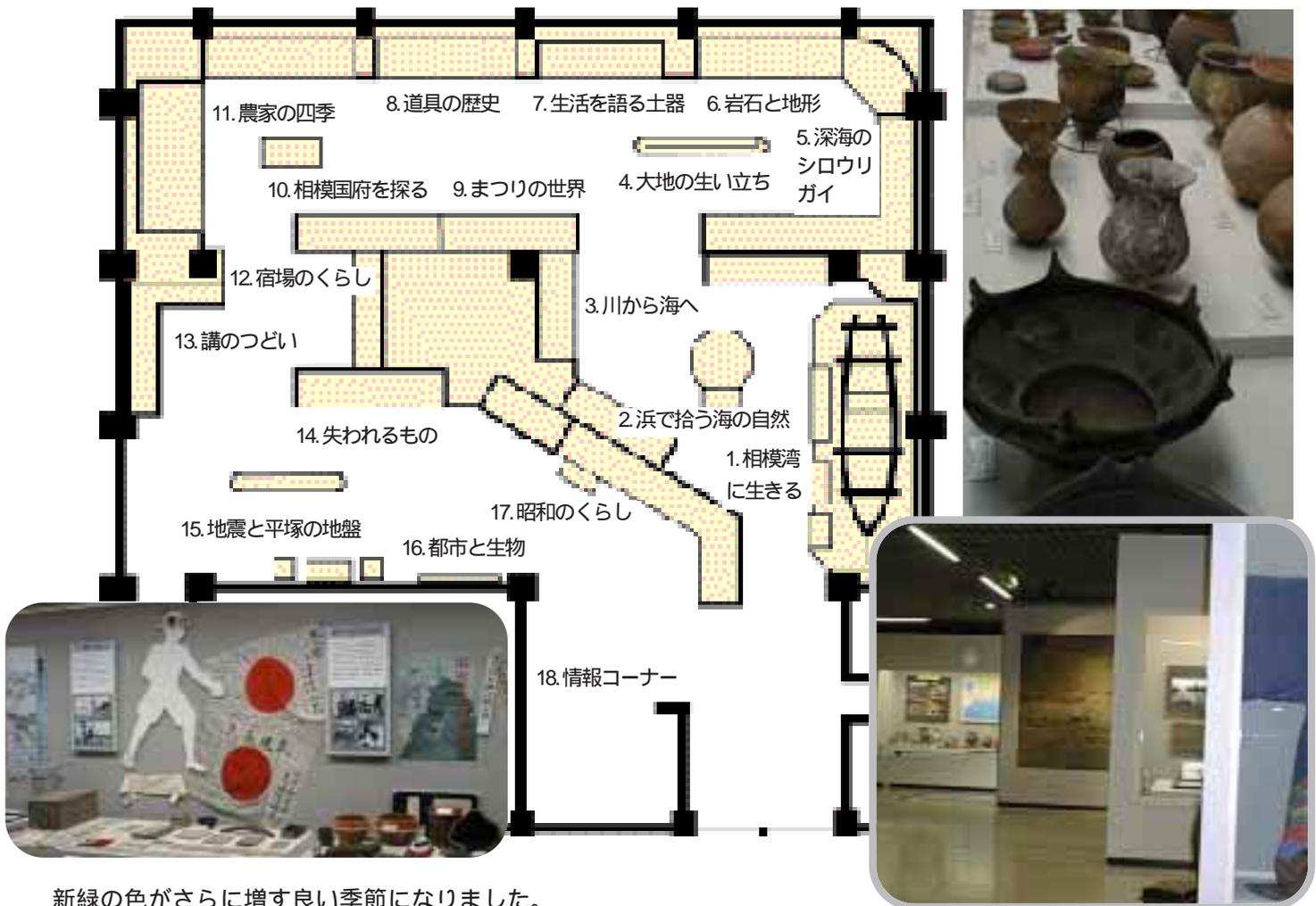


あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'98 5月号

二階展示室リニューアルオープン



新緑の色がさらに増す良い季節になりました。

今年で当博物館は、開館以来23年を迎えました。

この3カ月間の展示替え工事で主に2階の展示室等が一新されて、オープンの運びとなりました。今回を含めて4回目の展示替えができたこととなります。

新装になりました博物館を、ぜひ近隣・知友をお誘い合わせしてお出掛けになり、ご覧いただきたいと思います。

地域に根ざした博物館として、蓄積された資料・情報を生かして常設の展示に反映し市民に提供することは重要な役割であります。博物館が地域のいろいろな資料・情報を市民と協働して収集し保管し展示して、広く市民の方々にご利用いただいております。

地域博物館は、地域に住んでいたり働いている人が地域そのものを再発見するための場であり、より深く地域生活を理解し愛着を育み、人間の営みを実感してその地域の発展に関わっていくことにもなります。

こうしたことから、今後も市民の方々の願いに応えられるような資料・情報の提供や市民協働事業の取り組みが求められていると考えております。

博物館として取り組み可能な平塚の自然と文化に関わる具体的な課題に対し、職員の英知を集め立ち向かっていく姿勢で努めていきますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

館長 川手 十芽男



1. 相模湾に生きる

相模湾で繰り広げられた漁業を紹介するコーナーです。地曳船の背景に大きな四葉続きの絵を掲げました。明治16年の全国水産博覧会に平塚新宿より出品された資料で、当時の地曳網の様子とタタミイワシ製造工程が描かれています。また、カツオー本釣りに欠かせなかったイキョというイワシの生け簀に使った巨大な籠も展示しました。

2. 浜で拾う海の自然

8年間虹ヶ浜海岸で続けてきた「漂着物を拾う会」で収集した資料の中から、海の動物を中心に紹介します。ベンケイガイ・ヤツシロガイなどの貝、キンセンガニ、ワタトリカイメンなどのほか、アカウミガメ・コアホウドリなどの大物も展示されます。南西諸島から黒潮に運ばれてきたゴバンノアシの実にも注目してください。

3. 川から海へ

海岸に流れ着いている漂着物の中には、川を通して街から運ばれてきた人工物もたくさん見つかります。漂着物を見ていると、どこからどんな事情でここまでたどりついたのか、それぞれの物語が聞こえてくる気がします。展示された物との対話を楽しんでください。

4. 大地の生い立ち

相模川流域の1億年に亘る大地の歴史について、かつての日本列島の様子を交え、プレートテクトニクスの観点から、写真や実物資料を用いてその成り立ちを紹介します。また、大地の壁では、流域の大地を作る様々な化石を展示し、市内万田の地層をはぎ取った実物を展示します。様々な資料は何を語ってくれるのでしょうか。

5. 深海のシロウリガイ

相模湾は南から動いてくるフィリピン海プレートが現在衝突し沈み込んでいる場所で、深い海底谷が発達しています。ここでは、相模湾の深海の地形の様子や、独特の生態系をもつシロウリガイを代表とする深海生物群集などについて紹介します。水深1000m以深の深海に生息するシロウリガイ化石は何を物語るのでしょうか。



6. 岩石と地形

相模川流域の大地は、様々な岩石からできています。流域の地形は丹沢や伊豆が本州に衝突し、丹沢が急激に隆起してから作られました。富士や箱根は最も新しい時期に形成されました。ここでは、流域のどんな場所にどんな岩石が分布し、どんな地形が見られるかを、地質図と写真・岩石の実物資料から紹介します。

7. 生活を語る土器

縄文土器は食生活の上での画期的な道具として出現しました。その後、貯蔵具、食器など様々な用途に分化してきましたが、土器のもつ本質は現代社会まで受け継がれています。各時代の土器は、その時代の背景を投影しています。投影された土器から逆にその時代の暮らしを考えてみてください。

8. 道具の歴史

石器から始まった道具は、金属器（銅・鉄）の渡来・導入により、村の仕組みや、集落の景観が変わります。自然に準拠していた縄文文化から、稲作農耕を主体とする弥生文化は耕地拡大のために自然に立ち向かっていきます。そのために用途のあった道具の細分化が進んでいきます。道具の歴史を探ることによって、その時代の人々の暮らしを垣間見ることが出来ます。

9. まつりの世界

人が亡くなったときの悲しみ、地震・火災などの災害に対する不安・恐怖。様々な心の変化を具体的な形で表現したものが「まつり」です。そのために、願いや祈りをこめた特別な遺物が使われます。原始・古代人のくらしの中から生まれた「まつり」の一端を探ります。縄文土器の有孔鏝付土器に描かれた模様は何を意味するのでしょうか。

10. 相模国府を探る

相模国府（現在の県庁）所在地に関して様々な見解が出されてきましたが、近年の考古学の成果から、相模国府が平塚の四之宮周辺に所在していたことが明らかになりつつあります。証拠となるような資料をたくさん展示しましたので、是非ゆっくりご覧下さい。



11. 農家の四季

平塚市は県内一の水田面積を誇る農業都市です。古くからの家はそのほとんどが何らかの形で農業に携わってきたといえます。したがって、平塚の生活の歴史を学ぶには、かつての農家の暮らしを知ることが不可欠になります。動力機械が導入される以前の農業は、手作業や牛馬で行なっていました。手労働時代の農具の展示を通して農家の暮らしを紹介します。脱穀調整のややこしい工程や豊富な鋤の用途などを分かりやすく展示しました。

12. 宿場のくらし

近世東海道中、江戸から数えて七宿目にあたる宿場が「平塚宿」です。今回の展示替えでは、江戸後期（文化期）の平塚宿絵図をメイン展示物に、一階の平塚宿模型に対応した「宿並」を図式化してパネルにしました。また、社寺参詣などを通して、街道利用者の増加にともない作られた「道中記」といわれる旅行案内書の数々を展示しています。

13. 講のつどい

稲荷講、不動講、念仏講、庚申講、地神講の諸道具を展示しました。田村不動講中からいただいたお不動さんは信仰していると流行病にかからないといわれ、この4月まで講中各家を回っていました。別れ際に涙を浮かべて見送ってくれた人もいました。あつい思いが込められた神仏たちです。どうぞお参りにいらしてください。

14. 失われるもの

平塚を代表するさまざまな景観を海・街・丘陵・川・田園に代表させ、その移り変わりを、同じ場所で新旧の写真を利用して紹介しています。古い写真は昭和初期のものから昭和40年代のものを使用していますが、それぞれの場所を現在と比べたとき、その激しい変化に驚かされます。その変化の中で景観ばかりでなく色々なものが失われたと考えられますが、如何でしょうか。写真を通して、それが何なのかを考えてみたいと思います。



15. 地震と平塚の地盤

私たちの生活する平塚の地盤は、地震の側面からみるとどうなっているのでしょうか。ここでは、平塚の地形と地盤・液状化と活断層・予想される大規模地震について解説します。活断層のはぎ取り標本・博物館で記録した地震波形・コンピュータによる検索など、盛りだくさんです。市内各地の地盤検索は地質調査会が作成しました。

16. 都市と生物

都市化が進むと、動植物の世界にも大きな変化がおきます。このコーナーでは、そうした変化をパズルの形で体験してもらえるようになっていきます。平塚の地名と照らし合わせて、タンポポのパネルを地図の中に配置していくと、どの地域にどんな種類のタンポポが多いかが自然に浮かび上がってくるのです。

17. 昭和のくらし

現在、県下有数の商工業都市として湘南地区の中核都市に成長した「平塚市」の原点は、平塚の都市形成と切り離せない「平塚大空襲」に求めることができます。展示では「平塚大空襲」を中心に、それに至る「昭和のくらし」を「戦争」という国難を通して見つめてみました。

18. 情報コーナー

このコーナーに置かれているパソコンでは、博物館が調査してきた平塚や相模川流域の自然と文化に関する情報を見ることができます。その操作は館内にはられたネットワークに接続して、インターネットを見る時に使われるブラウザと呼ぶソフトで閲覧します。この仕組みの最大の特徴は地図や衛星画像を目当てに地域情報にふれられることです。相模川流域は人工衛星の画像を見ながら、また、平塚市内の遺跡や自然観察のポイントなどは、分布地図や道路地図を見ながら、マウスでたどれます。その感覚はきままな旅の雰囲気にも似て、楽しく地域を探ることができます。

博物館カレンダー

5月の行事予定

1	金	古文書講読会	館内
2	土	◎星を見る会「月と春の星座」	館内
7	木	石仏を調べる会	館内
8	金	古文書講読会	館内
9	土	◎漂着物を拾う会 地質調査会	平塚海岸 館内
10	日	民俗探訪会「説明会」	館内
15	金	古文書講読会	館内
16	土	古代遺跡を探す会 平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会「ガイダンス」	箱根 館内 館内
17	日	◎炉ばたばなしの会 ○みんなで調べよう 地質調査会	館内 館内 野外
20	水	地質調査会 裏打ちの会	館内 館内
21	木	石仏を調べる会	館内
22	金	古文書講読会	館内
23	土	みんなで調べよう	館内
29	金	古文書講読会	館内
31	日	相模川の生い立ちを探る会	佐島

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

●寄贈品コーナー

「新資料展」

5月1日(金)～5月31日(日)

●プラネタリウム

「天の北極」

星空の動きの中心といえば北極星ですが、じつは少し動いているのです。そして千年といった時間の尺度では北極星は変わります。どんなしくみで北極星は動き、北極星が変わるのか、お話しします。

期間：5月2日(土)～7月12日(日)の土日曜日

時間：午前11時と午後2時

観覧料：100円

参加者募集

●こども観察会

テーマ：梅雨に見られる動物の観察

日時：6月14日(日)午後1時～午後5時

場所：土屋(土屋橋付近)

対象：小中学生と保護者に限る

申込：往復ハガキに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、博物館「こども観察会」係へ申し込んでください。

切：6月5日(金)まで

□燻蒸休館のお知らせ□

6月1日(月)～6月11日(木)は全館燻蒸のため休館となります。博物館資料を虫害などから守るための消毒作業です。ご理解の程お願いいたします。

6月の行事予定

7	日	民俗探訪会	上吉沢
12	金	古文書講読会	館内
13	土	天体観察会「星の動き」	館内
14	日	○こども観察会「梅雨の動物」 地質調査会	土屋 館内
17	水	裏打ちの会	館内
19	金	古文書講読会	館内
20	土	地質調査会 平塚の空襲と戦災を記録する会	野外 館内
21	日	◎炉ばたばなしの会	館内
24	水	地質調査会	館内
25	木	古代遺跡を探す会	野外
26	金	石仏を調べる会 古文書講読会	館内 館内
28	日	相模川の生い立ちを探る会	白石沢

新規行事のお知らせ

●炉ばたばなしの会

毎月第3日曜日午前中に博物館の民家で昔話が語られることになりました。語り手は、炉ばたばなしの会の皆さんです。博物館では、どうしても形ある物や映像資料しか展示できません。しかし、庶民の暮らし、とくにその心を知るには、形に残らない口伝えで受け継がれてきた知識がとても大切になります。しばし民家の囲炉裏端で豊かな昔話の世界に心を遊ばせてみてはいかがでしょうか。

～5月のお話予定～

・鳥呑み爺(とりのみじい)(新潟県)

・さるむこ(山梨県)

・食わず女房(東北地方)

・北向き観音(平塚市四之宮)

期日：5月17日(日)

時間：午前10時30分～と11時～の2回

場所：博物館民家内 参加：自由

●星を見る会

「月と春の星座を見よう」

春の星座と月を望遠鏡で観察します。

日時：5月2日(土)7時～8時30分

場所：博物館屋上

集合：1階科学教室

参加：自由 *曇雨天時中止

●漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた生物や人工物を拾って調べます。

日時：5月9日(土)9時30分～11時

集合：花水川橋平塚側たもと、記念碑前

参加：自由 *雨天時中止

あなたと博物館

23巻 2号 通巻255号 発行 平塚市博物館 3000

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 TEL:0463-33-5111 FAX:31-3949